

13:10~13:25

(一社)日本橋梁建設協会 広報委員会

3.単径間ダブルデッキトラスの 送出しについて

— これからの日本に必要なこと —

1 製作技術の変遷と今後の展望

国内の鋼橋製作の歴史は130年余りを数える。近年、原寸のCAD化、NC切断、シミュレーション仮組などIT技術活用に伴い製作精度は格段の進歩をとげ、複雑かつ芸術性を兼ね備えた橋梁も誕生してきた。また、鋼材の進歩に伴う溶接技術の発達、自動溶接機に代表される様々な自動化、非破壊検査の適用拡大等、新たな技術の導入も進んでおり、耐候性鋼橋梁に代表される長寿命化に向けての取り組みも、一層活発になりつつある。橋建協創立50周年にあたる今年、鋼橋製作の歴史について振り返る。

2 鋼コンクリート合成床版の凍害に関する実験的研究

鋼コンクリート合成床版は、下面からの水分の発散がないことからコンクリート中の水分量が多くなると考えられる上、内部に鋼材が多いことで温度変化が大きく、RC床版に比べて凍害の進行が早くなることが懸念される。このため、合成床版の耐凍害性を調査することを目的として、合成床版を模擬した供試体による凍結融解試験を実施し、水分量、内部温度、スケーリング量などを計測した。ここでは、これらの結果について報告する。

3 単径間ダブルデッキトラスの送出しについて

本形式としては国内最大級の支間長(約155m)となる単径間ダブルデッキワーレントラス橋を送出しにて施工した。

送出工法は、トラス橋の架設には通常採用されないが、河川への影響を最小限にし、環境負荷を低減させるために、あえて本工法を採用した。

送出し重量は約2,400トン、縦断勾配が5%(約8m)であるが、水平に送出した後に回転・横取りを行ない、最後に降下をして所定の位置に収めることができた。本稿では、その計画・施工について詳述する。

特別講演会

「メンテナンス元年」その後

— これからの日本に必要なこと —

—経歴—

昭和49年 東京都建設局入都
平成 元年 同港湾局建設部東京港連絡橋新交通システム建設室主任
平成 4 年 同建設局道路建設部道路橋梁課主査
平成17年 建設局道路管理部専門参事(橋梁構造担当)を経て現職。

—専門分野—

橋梁工学、アセットマネジメント、維持管理

高木 千太郎

(公益財団法人)東京都道路整備保全公社 道路アセットマネジメント推進室長
(一般財団法人)首都高速道路技術センター 上席研究員
法政大学 兼任講師
国土院大学 非常勤講師

講演概要

中央道・笹子トンネル天井板落下事故を契機に国内の社会基盤施設、特に道路施設の質の確保が重要であることを多くの国民は認識をし、我々技術者への要求も高いものへと推移している。また、最後の警告—今すぐ本格的なメンテナンスに舵を切れと社会基盤施設の事故再発を防ぐため、これまでにない口調で警告を発している。このような背景において、落下事故から2年、「メンテナンス元年」と呼ばれて1年、国内の社会基盤施設の何が違って、何が変わっていないのか、何を变えるべきなのかを示し、今後の日本に何が必要なのかを解説する。

FAX番号:011-261-2427

平成26年度

11月14日(金)

橋梁技術発表会

[北海道地区]

参加申込書

所属

団体名

所属

氏名

役職

氏名

住所

〒

電話番号

FAX番号

E-mail

前回参加の有無 有 ・ 無